

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902439		
法人名	医療法人社団 及川医院		
事業所名	グループホーム おいかわ 1F		
所在地	旭川市豊岡4条10丁目4番1号		
自己評価作成日	平成28年9月10日	評価結果市町村受理日	平成28年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。  
 基本情報リンク先URL [http://www.kaisokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JivvosyoCd=0172902439-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaisokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JivvosyoCd=0172902439-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム『おいかわ』の基本理念に基づき、入居者が安らぎ・幸福感和安心が感じられ個人として尊重され、その人に合わせた能力を最大限に発揮でき、自主的な決定を行えるように支援し、生活が向上するように支援させていただくように心掛けている。医療機関が経営主体なので健康管理・急変時の対応など迅速に対応できるように取り組んでいます。平成25年4月1日より診察担当が及川巖理理事長から及川太院長に変更になり順調に推移しています。介護職員も安定し3年以上勤務の職員が80%以上勤務し入居者さんと和やかに生活している。夏祭り・敬老会・クリスマス会などを催し家族だんらんができるようにしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年9月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に開設12年目を迎える鉄筋コンクリート2階建て2ユニット(定員:18名)の母体医療法人が運営するグループホームです。日常の健康管理や医師の往診、看護師による健康管理・医療相談、急変時の迅速な対応など利用者・家族等の安心度の高い医療体制の支援となっていると共に町内会のイベントや清掃等の行事参加等で地元の人々との交流に取り組んでいる。また、夏祭りでは、家族や友人・知人、親戚や町内会の人々に参加を呼びかけたり、吹奏楽等のボランティアの協力を得ている。敬老会では、三味線や尺八、太鼓等のボランティアの協力やカラオケ大会を開催するなど家族等との交流の機会を設けている。花フェスタ見物や花見、ドライブや買い物等で一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけて気分転換や楽しみごとへの支援をしている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者さんを、個人として尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活が実現するよう努めている。各フロアに基本理念を掲示している。	事業所独自の理念を作り、全体会議やミーティングを通じて、その理念を共有して実践につなげている。また、各ユニット毎の見易い場所に理念を掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より町内会には入会し、町内会行事等(イベント・ごみ回収・清掃等)には参加するように努めている。	町内会のイベントや清掃等の行事参加等で地元の人々との交流に取り組み、夏祭りでは、家族や友人・知人、親戚や町内会の人々に参加を呼びかけたり、吹奏楽等のボランティアの協力を得て交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人の入居者家族や見学者の話の中で認知症やホームの役割等を話し理解を求めている。まだまだ理解されていない現状がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的で開催し、ホームの取組や課題などを検討しサービスの向上に生かしている。	定期的に運営推進会議を開催して、事業所の取組状況や日常生活の様子等の具体的な内容を話し合い、そこでの意見等をサービスの向上に活かせるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指導鑑査課・包括支援センターと連絡を密にし連絡している。研修会にも参加するように心掛けている。	市担当者とは、日常業務を通じて情報交換や助言等を得ながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議・フロア会議において身体拘束禁止に取り組んでいる。日頃より身体拘束になる行為を認識し身体拘束のないケアに取り組んでいる。電動ベッドにて柵を夜間等2か所している入居者は3か月に一度会議にて検討して、継続の場合は文書にて家族の同意を得ている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を全体会議やフロア会議を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で、虐待等について話し合い虐待の防止に努め、細かいことでも注意しあえる様にし虐待を見逃すことのないように確認しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員が外部の研修に参加するように促してはいるが、まだまだ少ない、今後は学ぶ機会を増やせるように検討する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前・契約凍結時に必ず家族等に十分時間をとり説明・同意をいただいている。不安や疑問の際はその都度、説明し理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんやご家族の思いや要望事項等を気軽に話せる雰囲気を作り、思いや要望事項を反映するように心がけている。入口に意見箱を設置している。	本人・家族、来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置し、そこでの意見等を運営に反映できるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、職員と気軽に話し合いできる機会を設けている。朝礼での申し送り時・全体会議・ミーティングなどで話し合いや、意見を聞いてできる限り要望に応えている。	全体会議やフロア会議を通じて、職員の意見やアイデア等を聞く機会を設けて、そこでの意見等を運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力・技量・やるき・環境などを考え希望に応じた支援をしている。有給休暇等による気分転換などははかっている。資格習得がしやすいように職場環境を整えている。毎年の昇給・賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員一人ひとりのスキルアップを図るように努めている。職員に対し研修・セミナーの開催などを回覧し積極的な参加をうながしている。希望に応じた勤務など支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	勉強会・研修会などの職員参加して、他事業所との連携を図るようにしているが管理者・主任以外の参加が少ない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の思い・不安なこと要望等を聞き、本人が安心でき安らぎが得られる関係ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族から今までの過程やご苦勞を傾聴し、ご家族との関係を築いている。気軽に相談できる雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族が何の支援を必要としているか、何を求めているのか見極め必要な支援・介護・医療等を提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が日々の仕事の中で、共に生活している意識を持ちいろいろと話し合い、一緒に心配事や問題を解決していく信頼関係を築くように対応している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にとり、共に入居者さんをささえ信頼関係を築くように務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の来訪支援や買い物、町内のイベント(清掃、行事等)参加、花見などで馴染みの人や場所	友人・知人の来訪支援時における談話の配慮や美容室等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや共通の趣味などを通じてお互いの関係ができるように努め、必要に応じて職員が間に入り良好な関係が持てるように支援しているが個性があるので強制はしない。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院先等をたずねて状況を把握し家族の相談等に対応している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から話を伺ったり、本人の日々の生活の中から会話・行動・表情・そぶり等から本人の意向や思い等をさがし検討し実践している。困難な場合は家族と相談してからフロアー会議で検討している。	一人ひとりの趣味嗜好や日常の会話の中で意向を把握して、職員間でその情報を共有し、本人本位の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの、生活習慣をご家族や本人からよく聞き今までの生活習慣を崩さないように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌(生活状況・バイタル・排尿・排便・水分・食事量等)のチェックスタッフ間で共有し体調変化を見逃さないように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者さんやご家族から意見や思いを聞き全体会議・フロア一会議で話し合いサービス担当者会議を得て見直し入居者さんやご家族の意見や思いを反映した介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族からの意向や要望、医師・看護師からの指導や助言、職員の意見やアイデアを反映して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録及び日誌に日々の記録を記入し、職員間の情報共有には連絡ノートに記入し介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況、ニーズに対応し、柔軟に対応できるように努めている。身体機能の変化に対応した柔軟な対応に取り組んでいる。外出・整骨院・美容院・外泊・買い物等		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭り・イベントなどで地域の人々も参加してもらいました、町内会のイベントに参加したり、地域の資源活用したり、豊かな生活を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族が希望する病院を受診している。希望がない場合は、医療法人の及川医院を受診している。毎週、及川院長、看護師が往診して状況を把握している。	運営母体の医療法人の支援や日常の健康管理、急変時の迅速な対応などで、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	及川医院の看護師が入居者さんの健康状況を把握して、職員と相談し受診の指示等している。日中・夜間の体制も及川医院の院長・看護師のとの連携で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	及川医院に入院した場合は、日頃から受診していることで院長・看護師・家族との要望に応じて対応している。他病院の場合は文書・口頭にて状況報告及び及川医院での紹介状を届ける。早期退院支援をする。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期はどのように対応するか常に家族と話し、意思確認をしている。重度化した場合にはどうするかかかりつけ医と、常に話し合っている。看取りについては要望はないが要望があった場合は対応する。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から、本人・家族等と話し合い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、常に急変時及び事故発生時に対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報訓練・避難訓練(夜間も想定)・消火訓練などを定期的に年2回行っている。お祭り・運営推進会議等にて地域に対しても協力・連絡体制の依頼もしている。	昼夜を想定した火災避難訓練・通報訓練を定期的に実施している。また、緊急時に協力が得られるように地域の人々に協力を得られるよう働きかけている。	限られた地域住民だけではなく、幅広い方々の協力を得られるよう施設の趣旨・役割・入居者の状況などをPRして協力して戴くよう検討しているので、その実践に期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個人として尊重し、安心と尊厳のある生活が実現できるように入居者さん個々に対応している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように内部研修で職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんの思いや希望をできるだけ日々取り入れ、本人のできることなどを考慮し、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者さんの個々の生活に合わせた暮らしができるように、日々を大切に、過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人の希望に沿って、個々の状態によって身だしなみを整えている。理美容はなじみのお店にいけるように支援している。ない場合は訪問理美容を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんの嚥下状況・咀嚼能力などに合わせて調理し、個々の好みに合わせ、食事を楽しむことができるように支援している。職員と一緒に食事の準備等はできる入居者さんは現在はいない。	一人ひとりの力や好みに合わせて食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量(主食・副食)・水分摂取量など日々チェックし個々の記録簿に記載し確認・把握を対応している。献立は及川医院の栄養士さんが作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後及び必要に応じて、声掛け、誘導、見守りなどしながらそれぞれの能力に応じた対応をしている。本人能力に応じた口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排便チェック表で管理し職員・医師・看護師と協力しながら個々の体調・パターン・習慣などを考慮しながら自立に向けた支援をしている。寝たきりの入居者さんも可能な限りトイレへ誘導している。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者さんの生活状況・体調・食事量などを考慮しながら飲食物を工夫して便秘予防に努めている。便秘の場合は医師に相談し下剤等を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入居者さんの希望や体調に合わせた入浴を心がけている。楽しく入浴できるように入浴剤の使用や雰囲気づくりに心がけている。入浴日は週4回PM。特別の場合は随時入浴。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週4回の柔軟な入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣・体調などを考慮してその状況に応じた対応し、日中はロビーでなるべく過ごしてもらい夜間が気持ちよく睡眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個々の記録簿にファイリングし職員が薬の内容を確認できるようにしている。副作用・異変が疑われる場合には医師・薬剤師と連絡するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや洗濯物タミ、掃除の手伝いなど入居者さんの生活歴に応じた役割や楽しみごとなどの支援を行っている。時々買い物や散歩などを楽しんで気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の身体状況・健康状況などを考えながら、散歩のできる方車イスで散歩できる方はしている。ドライブ・花見・イベント見学・買い物などできるだけ希望に応じているが、ドライブ・花見などできない方が増えている。	花フェスタ見物や花見、ドライブや買い物等で一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけて気分転換や楽しみごとへの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の同意をえてお金を持っている方もいるが、その他の方は家族の同意を得てお金を預かり、お支払いを代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者さんが携帯電話及び電話を個室に設置している方もいるが、ない方も職員に申し出たり自由に使用している。手紙は希望により職員がお手伝いをしたりして支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・廊下・食堂等に四季や催し物にあわせた飾り付けをしたり行事の写真を飾っている。入居者さんと一緒に飾り付け作成をしている。入居者さんが心地よく日常が過ごせるよう、トイレ・居室・ロビー等、清掃・清潔には気を使っている。	共用空間は、広くゆったりとしていて清潔感が漂い、季節毎の飾りつけやイベントの写真の掲示など生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各入居者さんが居心地よく過ごせるよう考え方も生活習慣も、体力・行動など違う中で、何がその人にとって暮らしやすいか、もう一度職員が考え、御家族の意見を聞き、聞ける入居者さんからは聞き取り対応するよう検討しているので、その実践に期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに椅子やソファを置き思い思いに談話・談笑できるように工夫している。入居者さん各自自分の場所がある。なるべく意思を尊重している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さんが家族と相談しながら思い思いの家具やなじみの品々を持ち込み入居者さんが居心地よく過ごせるように工夫している。	居室は、家族と相談しながら使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者さん個々の状況に合わせてできないことをスタッフ間で話し合い日々検討し、本人が安全で自立できる生活が送れるように工夫している。安全の為、介護用ベッド使用も増えている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902439		
法人名	医療法人社団 及川医院		
事業所名	グループホーム おいかわ 2F		
所在地	旭川市豊岡4条10丁目4番1号		
自己評価作成日	平成28年9月10日	評価結果市町村受理日	平成28年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。  
 基本情報リンク先URL [http://www.kaisokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JivvosyoCd=0172902439-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaisokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JivvosyoCd=0172902439-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム『おいかわ』の基本理念に基づき、入居者が安らぎ・幸福感と安心が感じられ個人として尊重され、その人に合わせた能力を最大限に発揮でき、自主的な決定を行えるように支援し、生活が向上するように支援させていただくように心掛けている。医療機関が経営主体なので健康管理・急変時の対応など迅速に対応できるように取り組んでいます。平成25年4月1日より診察担当が及川巖理事長から及川太院長に変更になり順調に推移しています。介護職員も安定し3年以上勤務の職員が80%以上勤務し入居者さんとも和やかに生活している。夏祭り・敬老会・クリスマス会などを催し家族だんらんができるようにしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年9月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者さんを、個人として尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活が実現するよう努めている。各フロアに基本理念を掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より町内会には入会し、町内会行事等(イベント・ごみ回収・清掃等)には参加するように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人の入居者家族や見学者の話の中で認知症やホームの役割等を話し理解を求めている。まだまだ理解されてない現状がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、ホームの取組や課題などを検討しサービスの向上に生かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指導鑑査課・包括支援センターと連絡を密にし連絡している。研修会にも参加するように心掛けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議・フロア会議において身体拘束禁止に取り組んでいる。日頃より身体拘束になる行為を認識し身体拘束のないケアに取り組んでいる。電動ベッドにて柵を夜間等2か所している入居者は3か月に一度会議にて検討して、継続の場合は文書にて家族の同意を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で、虐待等について話し合い虐待の防止に努め、細かいことでも注意しあえる様にし虐待を見逃すことのないように確認しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員が外部の研修に参加するように促してはいるが、まだまだ少ない、今後は学ぶ機会を増やせるように検討する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前・契約凍結時に必ず家族等に十分時間をとり説明・同意をいただいている。不安や疑問の際はその都度、説明し理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんやご家族の思いや要望事項等を気軽に話せる雰囲気を作り、思いや要望事項を反映するように心がけている。入口に意見箱を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、職員と気軽に話し合いできる機会を設けている。朝礼での申し送り時・全体会議・ミーティングなどで話し合いや、意見を聞いてできる限り要望に応えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力・技量・やるき・環境などを考え希望に応じた支援をしている。有給休暇等による気分転換などははかっている。資格習得がしやすいように職場環境を整えている。毎年の昇給・賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員一人ひとりのスキルアップを図るように努めている。職員に対し研修・セミナーの開催などを回覧し積極的な参加をうながしている。希望に応じた勤務など支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	勉強会・研修会などの職員参加して、他事業所との連携を図るようにしているが管理者・主任以外の参加が少ない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の思い・不安なこと要望等を聞き、本人が安心でき安らぎが得られる関係ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族から今までの過程やご苦勞を傾聴し、ご家族との関係を築いている。気軽に相談できる雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族が何の支援を必要としているか、何を求めているのか見極め必要な支援・介護・医療等を提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が日々の仕事の中で、共に生活している意識を持ちいろいろと話し合い、一緒に心配事や問題を解決していく信頼関係を築くように対応している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にとり、共に入居者さんをささえ信頼関係を築くように務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人が来訪された時は、居間や居室でゆっくり談話ができるように配慮している。馴染みの場所に行けない入居者さんも増えてきているができる限り支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや共通の趣味などを通じてお互いの関係ができるように努め、必要に応じて職員が間に入り良好な関係が持てるように支援しているが個性があるので強制はしない。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院先等をたずねて状況を把握し家族の相談等に対応している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から話を伺ったり、本人の日々の生活の中から会話・行動・表情・そぶり等から本人の意向や思い等をさがし検討し実践している。困難な場合は家族と相談してからフロアー会議で検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの、生活習慣をご家族や本人からよく聞き今までの生活習慣を崩さないように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌(生活状況・バイタル・排尿・排便・水分・食事量等)のチェックスタッフ間で共有し体調変化を見逃さないように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者さんやご家族から意見や思いを聞き全体会議・フロア会議で話し合いサービス担当者会議を得て見直し入居者さんやご家族の意見や思いを反映した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録及び日誌に日々の記録を記入し、職員間の情報共有には連絡ノートに記入し介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況、ニーズに対応し、柔軟に対応できるように努めている。身体機能の変化に対応した柔軟な対応に取り組んでいる。外出・整骨院・美容院・外泊・買い物等		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭り・イベントなどで地域の人々も参加してもらいました、町内会のイベントに参加したり、地域の資源活用したり、豊かな生活を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族が希望する病院を受診している。希望がない場合は、医療法人の及川医院を受診している。毎週、及川院長、看護師が往診して状況を把握している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	及川医院の看護師が入居者さんの健康状況を把握して、職員と相談し受診の指示等している。日中・夜間の体制も及川医院の院長・看護師のとの連携で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	及川医院に入院した場合は、日頃から受診していることで院長・看護師・家族との要望に応じて対応している。他病院の場合は文書・口頭にて状況報告及び及川医院での紹介状を届ける。早期退院支援をする。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期はどのように対応するか常に家族と話し、意思確認をしている。重度化した場合にはどうするかかかりつけ医と、常に話し合っている。看取りについては要望はないが要望があった場合は対応する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、常に急変時及び事故発生時に対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報訓練・避難訓練(夜間も想定)・消火訓練などを定期的に年2回行っている。お祭り・運営推進会議等にて地域に対しても協力・連絡体制の依頼もしている。		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個人として尊重し、安心と尊厳のある生活が実現できるように入居者さん個々に対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんの思いや希望をできるだけ日々取り入れ、本人のできることなどを考慮し、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者さんの個々の生活に合わせた暮らしができるように、日々を大切に、過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人の希望に沿って、個々の状態によって身だしなみを整えている。理美容はなじみのお店にいけるように支援している。ない場合は訪問理美容を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんの嚥下状況・咀嚼能力などに合わせて調理し、個々の好みに合わせ、食事を楽しむことができるように支援している。職員と一緒に食事の準備等はできる入居者さんは現在はいない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量(主食・副食)・水分摂取量など日々チェックし個々の記録簿に記載し確認・把握を対応している。献立は及川医院の栄養士さんが作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後及び必要に応じて、声掛け、誘導、見守りなどしながらそれぞれの能力に応じた対応をしている。本人能力に応じた口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排便チェック表で管理し職員・医師・看護師と協力しながら個々の体調・パターン・習慣などを考慮しながら自立に向けた支援をしている。寝たきりの入居者さんも可能な限りトイレへ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者さんの生活状況・体調・食事量などを考慮しながら飲食物を工夫して便秘予防に努めている。便秘の場合は医師に相談し下剤等を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入居者さんの希望や体調に合わせた入浴を心がけている。楽しく入浴できるように入浴剤の使用や雰囲気づくりに心がけている。入浴日は週4回PM。特別の場合は随時入浴。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣・体調などを考慮してその状況に応じた対応し、日中はロビーでなるべく過ごしてもらい夜間が気持ちよく睡眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個々の記録簿にファイリングし職員が薬の内容を確認できるようにしている。副作用・異変が疑われる場合には医師・薬剤師と連絡するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや洗濯物タタミ、掃除の手伝いなど入居者さんの生活歴に応じた役割や楽しみごとなどの支援を行っている。時々買い物や散歩などを楽しんで気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の身体状況・健康状況などを考えながら、散歩のできる方車イスで散歩できる方はしている。ドライブ・花見・イベント見学・買い物などできるだけ希望に応じているが、ドライブ・花見などできない方が増えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の同意をえてお金を持っている方もいるが、その他の方は家族の同意を得てお金を預かり、お支払いを代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者さんが携帯電話及び電話を個室に設置している方もいるが、ない方も職員に申し出たり自由に使用している。手紙は希望により職員がお手伝いをしたりして支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・廊下・食堂等に四季や催し物にあわせた飾り付けをしたり行事の写真を飾っている。入居者さんと一緒に飾り付け作成をしている。入居者さんが心地よく日常が過ごせるよう、トイレ・居室・ロビー等、清掃・清潔には気を使っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに椅子やソファを置き思い思いに談話・談笑できるように工夫している。入居者さん各自自分の場所がある。なるべく意思を尊重している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さんが家族と相談しながら思い思いの家具やなじみの品々を持ち込み入居者さんが居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者さん個々の状況に合わせてできないことをスタッフ間で話し合い日々検討し、本人が安全で自立できる生活が送れるように工夫している。安全の為、介護用ベッド使用も増えている。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム おいかわ

作成日: 平成 28年 9月 30日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	3	地域との交流を多くして、事業所が地域に貢献できるようにしていく。	地域の行事に参加する。資源ごみ収集には参加している。	地域の入居者さん家族等からどのようにすれば、交流する場を持てるか話を聞き、対応する。	1年間
2	35	災害時の幅広い地域住民との連携・協力体制の構築。	限られた地域住民だけなので、幅広い方々の協力を得られるようにする。	施設の趣旨・役割・入居者さんの状況などを幅広くPRし災害時に協力してもらう。	1年間
3	38	認知症の進行・下肢筋力低下・高齢による体力低下などで日々の暮らしができてない場合がある。	その人らしい暮らしとは何か、幸せとは・安らぎとは何かを考え、本人・御家族の考えを聞き対応する。	寝たきり・認知症の進行・不穏などの症状が出た場合なにが原因でどのように対応すれば、本人にとって安らぎが得れるか、職員も勉強する。	1年間
4	52	居心地のいい空間作り。	各入居者さんが居心地よく過ごせるようにする。	入居者さん各自が、考え方も生活習慣も、体力・行動など違う中で、何がその人にとって暮らしやすいか、もう一度職員が考え御家族の意見を聞き、聞ける入居者さんからは聞き取り対応する。	1年間
5	15	食事を楽しむことができる支援	ミキサー食・きざみ食・流動食(エンシュア)等をおいしく食べる又は飲む。	職員がおいしいミキサー食等の勉強をする。	1年間

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。